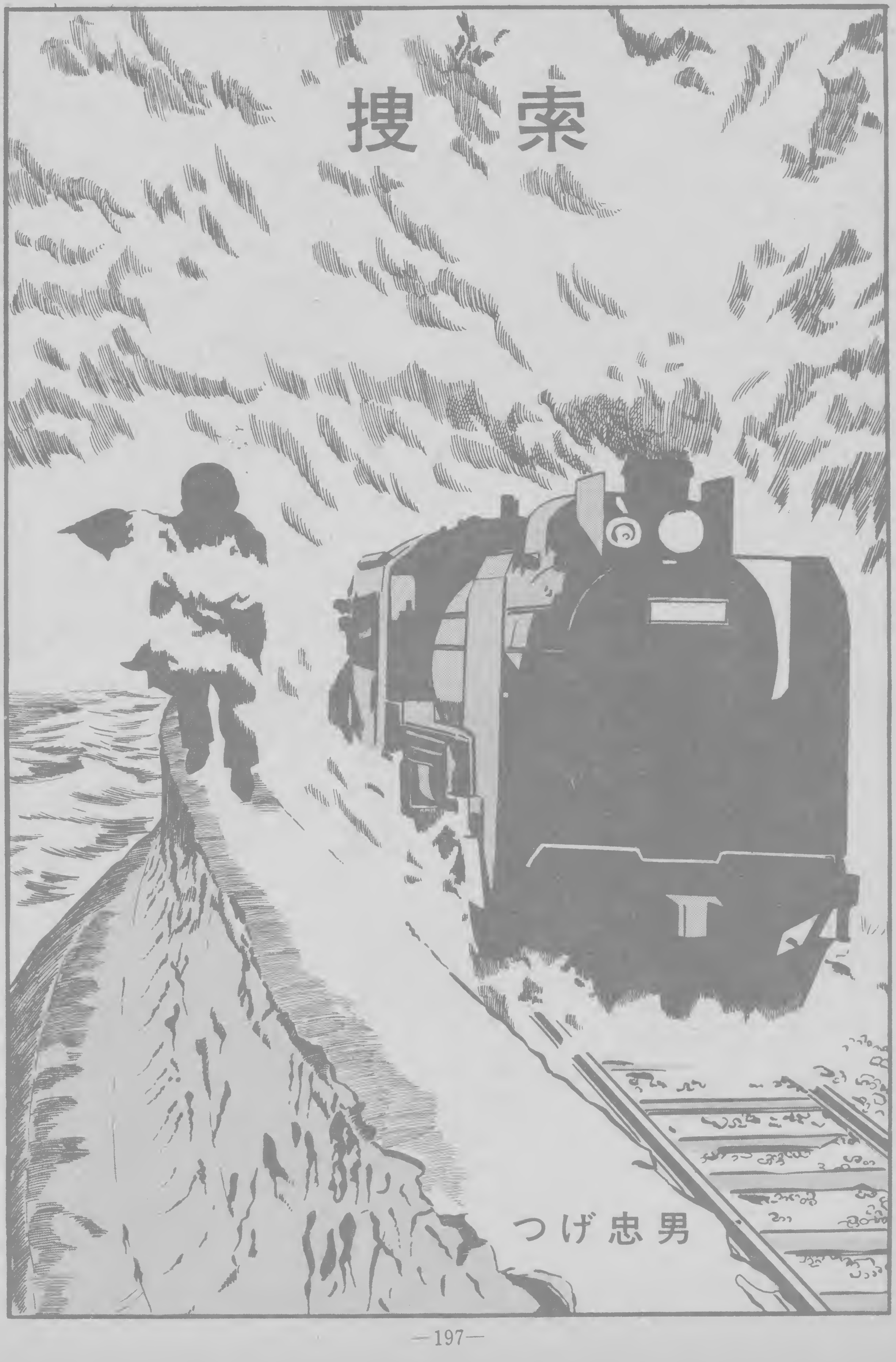
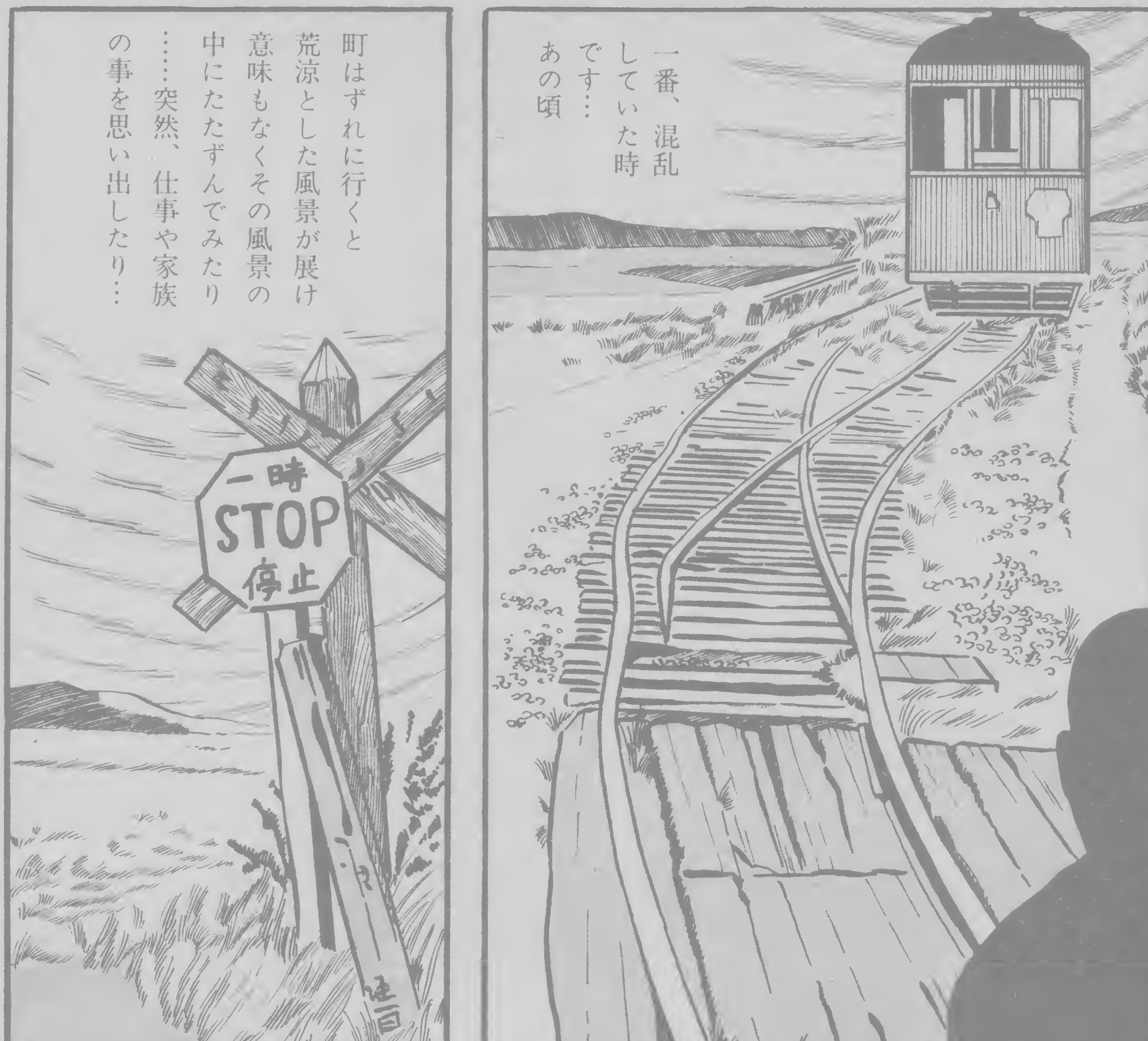

捜索
つげ忠男

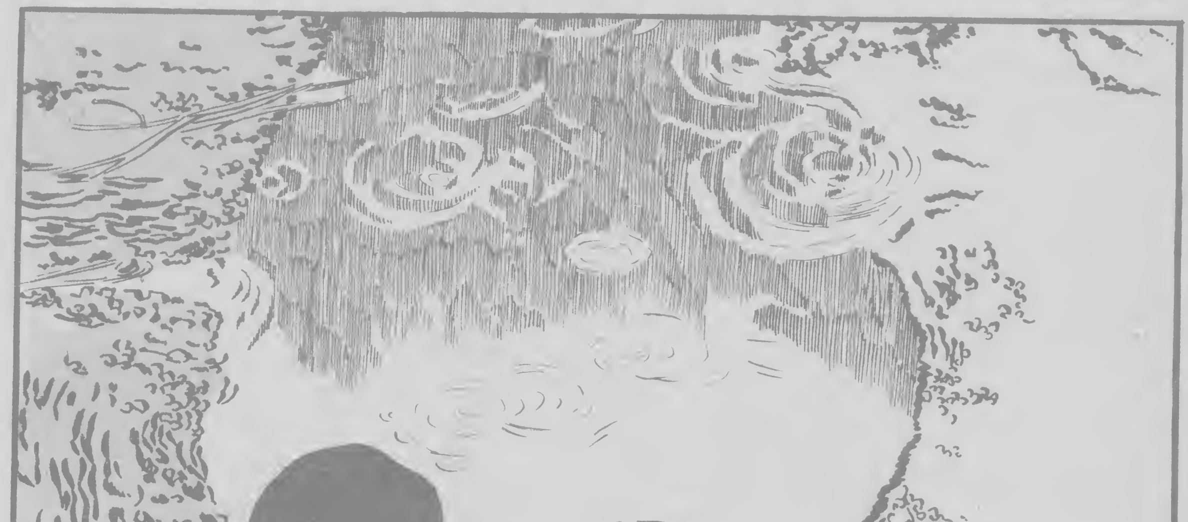

小さな田舎町には、よくあるでしょう
ああいった小屋が……
私、あれ見たの初めてだったんです
感心しましてねえ
いえ演じてる女達にです。
自信たっぷりでしょう
彼女達…………


いつも大勢の
者に、凝視め
られてる所為
でしょうか…
…舞台の上に
しっかりと
居るんです
ねえ………


一番、混乱
していた時
です…
あの頃
町はずれに行くと
荒涼とした風景が展け
意味もなくその風景の
中にたたずんでみたり
……突然、仕事や家族
の事を思い出したり…
一時
STOP
停止
で、なけれ
ば………
路地裏で
飲んだくれたり
していたのです
………いや多分
そうだと思うのです


ストリップ劇場のまわりは幾日もうろつきました……
豪華ショウ
㊙
金髪ヌードショウ
十八才未満お断り
あの踊子の顔が頭に焼き着いて離れないのです。……会ってどうするって訳ではなかったのですが……
ただ舞台の外であの女を見たかっただけです
どうしたものか判断がつかなかったんですが……不思議に死のうなんて事は考えませんでしたね私……


結局、私
それ以上、一人で居ることに耐えられそうもなかったのです


三ケ月の間に金もほとんど使い果していました。ふんぎりもつかない中途はんぱな気持で帰ってきてしまったのです……


……そんな訳で私、あまり色々な事思い出せないのです……なんと云うのかこう断片的な事ばかりで
いいでしょう…それは、又後で……
…で、田口さん、あんたが姿を消した動機は一体何んなのです?
僕等、失礼だが、あんたはもう見つからないとそう思ってた……
奥さんから捜索を依頼された時こいつは難しいと感じた
ざっと話を聞いた限り、それらしい動機が何も無いのだから
そこで蒸発流行の昨今これをキャンペーンとして取上げ
その捜索過程を記事にする事にした…勿論、奥さんの了解を得てですよ……
あんた読んでなかった?好評なんですよ……
それは……どうも……


ふ――ん　それはどうも……か　ふ――ん…
キャンペーンは今少しで終るところなんですよ……あなた見つからないままで
私、本当に新聞読んでなかったらこんなに、ゆう〳〵と帰れませんでした
ところで私、帰って来たの、まずかったでしょうか
いや〳〵決してそんな事ありません
こちらの都合だけで、あなた自身と奥さんにとってこれは喜ばしい事です………そうでしょ？
家内はとても喜んでくれました……が、しかし、
私自身はこれからどうしたらよいものやら気持の整理が未だつけられない………
当然です……さて、こちらにも目算がありますじっくり話合いましょう…
今、この応接室へ実際に捜索に当った男が来ます若いが有能な記者です。私の部下だ！



さすが新聞社ですなあ……大変忙しそうだ………
よお どうだい？
夕刊は大体、上がったようですよ…
今日は別に何もなし相変わらず交通事故だけは多いですワ
他社さんも似たりよったりでしょ
……で、最終的には……ウン……ウン……そう云ゥ事だ……
こちらと…エエ…手記と云った形で…



あ、どうもお世話になりました……
西崎です いやぁ…捜しちゃったですよ……田口さん
バサッ
早速なんですが今のキャンペーンは打切る事にし、その締めくくりとしてこれまでの経過を総集して載せようと思います おおよその足取りは調べてあるので後はあなたの話と合わせましょう ……特に僕等が知りたいのは
突然姿を消してしまったその動機ですね………
先ずあの日去年の十二月十二日でしたね
そうなんです………ボーナス日でした……
私ねえ正直云って動機なんてないと思うのです
なんだか急に「機関車が見たいなあ…」ってたったそれだけの事だったんです



機関車……？ エッ？ 何んですって？
機関車だ……… 面白いじゃないか…
う――ん 機関車ねえ……
なんでそんなの見に行く気になったのです？
何故だったのでしょう ボッ、ボッ、ボッ、ボッって、あんなもの
初めから話します……あの日、私残業でした……
暮れが近かったでしょう 私、帳簿の整理してたのです ボーナスは貰ったし……本当はいやだったのですが、他に詳しい人が居なかったのです いつも私一人残業なのです
私、いやになっちゃいましてねえ……
土台、人手が足りないのは判ってるのに、会社は考えてもくれないまったく………



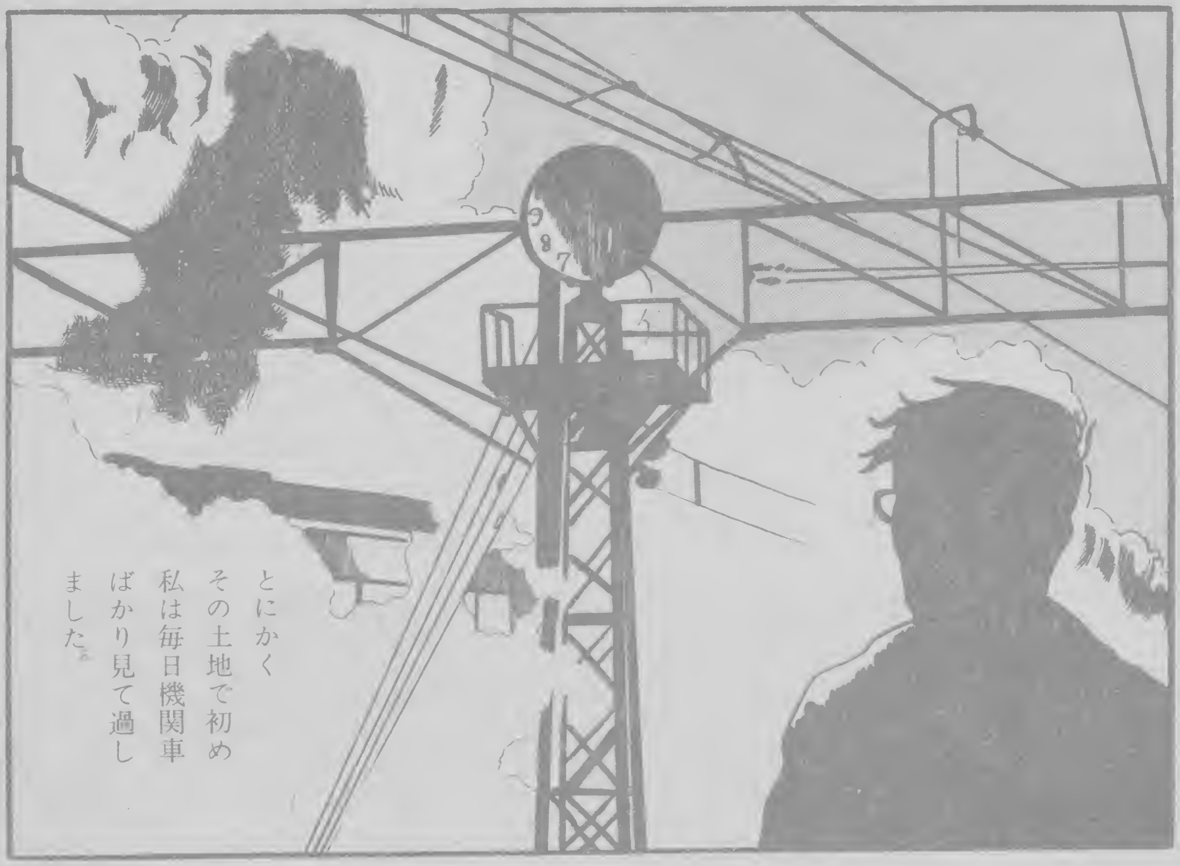
そうでしょう! ねっ、そうなんだ・
日頃、うっ積していた不満がぱっと………矢張り僕等の推理通りだった!
…………
判るんだなあ 僕等でもそうだ ……総てに余裕がなさすぎるんですな 現代は…
時々、ふっとどこかへ行ってしまいたくなる ……まったく
僕みたいな年下が云うの失礼なんですが ………
田口さんて普段何も遊びをしない人でしょう… 酒だってあまり強くないって事だし………
僕等が調べた限り田口さんは、堅い人で通っています その反動が旅先での、あの行動になったのでしょう ………
それまでの田口さんの生活から考えられない様な出鱈目さ………
……どうも… そうでもあるようだし… ……いや…違うかな… なんて言うのでしょう? あの気持…
私、不満はありますが…仕事は割り切って考えてますから……どうもうまく説明出来ない


エート 私、あの日、何時頃まででしたか……
七時迄です…あなたのタイムカード見ました 毎日続いていたようですね…
実に静かでした……
私一人の事務所はガランとして妙な感じでした 照明も一部を残してあるだけでした……時折車が通って行きます
まるで…深い…
海底に居る様な気分でした……


五百四十三万
とんで六百二十
………
ぴったりだ!
パチッ
終った
……
ブオオオオオオ
私…どれ位、そうして
いたでしょうか……
計算を終った瞬間から……
ゼンマイの切れた人形の
ように……身動き
出来なかったのです
……それから、私、不意に、
ギョッとなりました 足の爪先から
徐々に身体が消えて行くような、
そんな錯覚に捕われたからです


私ですね、それから
後の記憶が、どうもあや
ふやになってしまうのです
疲労していたのでしょうか
…頭の中はからっぽで……
何か…こう…胸騒ぎがして
…会社を出てからそのまま
どこまでも歩き続けてしま
ったようです……
無性に機関車を見たいと
思いました


あんなものよく知っている筈ですが、小さい時よく見たし、でもすぐ目の前で見たって事余りないでしよ…懐しさとかそんなんではなく、そう思うと、もう後先〃考えなかったんですねえ…
そうですね自分でも止める事の出来ない成行きってのはあるものです……
あれは何処だったのかなあ……


とにかく
その土地で初め
私は毎日機関車
ばかり見て過し
ました。


地面をゆるがして
あれが走る時
ズッシリと確かな
重量感を感じましてねえ…
C 4835
そのかたわらに
立っているだけで、何ん
となしに安心していら
れたのです……


宿は幾度も代え
なければなりま
せんでした。
毎日ブラ〴〵し
ていたので、す
ぐに怪しまれて
しまうのです。
何処の宿でも同じでした。
私が何者であるのか知ろうとする
者に対して、私には説明の
仕様が無かったのです。
勿論、証明してくれる人も
居ません。
…………
奇妙な焦りを
覚えました。
私は確かに居るのに、
誰も認めようとしないのです
…………
以前も
私は本当に
一社会人として
平凡な一社員として、
一家の主として、
認められていたのか？
謂る社会的地位も失った
現在の私は、成程、
一体何者？
…………
再び私は消えていき
そうでした。


それから後は、どうしていたのか…とにかく当てのない旅を続けていたのでしょう。


転々としながら、知らずに私はかつて私が住み、生活していた所へ戻って行くようでした。
機関車は所詮機関車でしかありません。


そして辿り着いたのがあの街、そうです、始めに話した踊り子の居た所です。多分……あそこが最後だったと思います。
その頃は、もう帰りたいと思いながら、申し訳なくて、恐くて、毎日迷っていた時なのです……
東京からそんなに離れてなかったと思うんですが……
おや？そんな訳はない……その踊り子がいたのはY県N市でしょ
待って下さい私が見たのは確か帰ってくるしばらく前で……そうだ雪がなかったですよ……
どう云う事でしょうあっちから連絡があって僕が行ったのは二月で雪が深かった時ですよ
変だな………
いいですか初めから話しましょう…
奥さんから頼まれたのは去年12月20日頃でした…あなたが消えた約一週間後です


警察へ頼んだが
見つからない……
それで僕等の所へ来たんです……
これは僕等の勘でしたが
案外面白い記事になるんじゃないかと思ったんです
……だが慎重に
様子を見ました
……
その間に一応
尋ね人欄には毎日載せたり、あなたに付いて色々聞き廻ったりしました
尋ね人
田口省一、
すぐ帰って下さい
妻・政子
貸借間
▽求間△
▽貸間△
僕等が本格的に記事として載せたのは今年に入って早々だった…
キャンペーンを読んだ誰かがあなたを見つけてくれたら、これは社としても金星だと思った
勿論
西崎君や
他の記者達
とでその為の
準備はしました。


姿をくらました動機
或いは、その要素が必ず
ある筈だ……僕等は先ず
それを知りたかった。
捜索する上で一番
重要な手掛りに
なる筈だったから……
初めに会社の同僚の人達に
当ってみた。
その他、奥さんからは勿論
…………
近所の方達や……
何人かの友人…………が、事件
的なにおいは何もなかった。
いや誤解しないで下さい。
しかし、あなたの周囲の人々からの
聞込みはすぐあきらめました……
得るものが無かったと云うよりも…
結局、あなた
に付いて誰も
何も知らないので
す。日常生活の表面的
な行動を証言するだけで、
それさえも「…だろう」とか
「そう思う」とか非常に曖昧なのです。
…………でも当然の事ですね。


僕だって案外
そんなものかも
知れない
結局、僕等はお互いに
よく知っている心算で、
実は全く、別の印象を作り
あげているのかも知れない……
ま、それはそれとして、そう
云った経過は総て記事にしました
尤もそれだけじゃ弱い訳で
実際にあなたの後を追わなければ
キャンペーンとしての
意味がないのです
…弱っちゃいましたねえ
動機さえ判れば
捜す範囲もせばめ
られる…その動機も
すぐ判るだ
ろうと最初
そう思った
んです……
甘かったんですね
……僕、
もうやけくそだと思いましたね
…………あなたの会社へ行き
机を調べさせて貰ったのです。
あなた覚えていますか、
週刊誌が一冊あったんですよ
サンデー新報
A県M沢付近を走る機関車
がグラビアで紹介されてい
ました……
ははは、どうです？
行先に当てがないと
したら……ね？
しかし、
確かに週刊紙
は見たのですが…
…その時は忘れ
ていました…私
いいのです
潜在意識と
言うやつで
しょう…


十二月半ば過ぎと言えば
あのあたりは雪だ……
あなたが最初に行った
土地と言うのはA県M沢
付近だったのでしょう?
こちらも多少意地になってましてね、
すぐさま西崎君に飛んで貰った。
一月の終り頃だったかな……確か、
そこの支局の
協力を得て
M沢及び周辺
の町の旅館に
あなたの写真
を配布しま
した。
………
指名手配等で
警察が使う
方法です……
推測は当っていてほしかった……
が、外れでも良い
僕等がそこまでやった
と言う事は……まあ
勝手ながら記事になると思った。
一度だけ、キャンペーンを休載
した日があったのも丁度
その頃です………
これで駄目なら
次回から形を
変えなければ
ならない……
なんて考えま
してね………
ところが西崎君、ねばって
くれましたね………
後で聞いたら「ここに間違いない」
って信じていたそうだ…彼



「旅情荘」
その旅館
思い出すで
しょう…
田口さん
小っちゃな旅館で
あなたはそこに
一月の初めまで
滞在していた。
写真を見せたら
すぐ判ったそうだ……
あなたのおかしな行動が
宿の人達に強く印象
付けたのでしょう…
ギシッ
ギシッ
あなたは昼間ちょい〳〵
外出したそうだ…
ギシッ
ギシッ
それは良いと
して、夜中には
よく旅館中を歩き
まわっていたと言う…
ギシッ
ギシッ
田口さん
一体……
何んのまね
だったんで
す?
何か
意味があった
んですか?
ギシッ
ギシッ



初めは宿の方でも
まあ、酔っぱらっているのだろう
位に思ってた。
あなた毎日
飲んでたそうだから……
だが度重なる内に
どうも
怪しい
って事に
なった。
第一、
そんな面を付けて
夜中歩きまわられたら
薄気味悪い……
気配を察した
のか、どうか、
あなたは間もなく
宿をひき
はらった
……
その時、警察へ
でも届け出てくれれば
よかったんですがねえ
……………
結局それ以上は
つかめなかったん
ですが…………
上出来で
しょう？
あなたが
無事でいるのが
判ったし、僕等の
推理も正しかった
んですから……
僕等は自信を得ましてね
その近県の支局全部に写真
を送り、出来るだけ多くの
旅館へ配って貰ったのです
……大分、印刷
しましたよ
しかし
それは
本当に私
だったの
でしょう
か？


ははは それは いい……
どう言う 事でしょう? 田口さん
もし私が本当に そんな事をしたのなら 少しは記憶に残ってる と思うのですが ……全然 覚えてない
それに私、ひとつの 宿にそんなに永く 居た事ないんです…… 三、四日の筈です……
写真を見て 宿の人達は 確かにあなた だと言ったん ですよ
あなたの思い 違いですよ ……自分でも記憶 があやふやだと 云ったでしょ 失礼 だが、あなた の精神状態は 正常ではなかった と云う事です
そうでしょう か…… 変だなあ……
ね、お面をつけて 夜中うろつくなんて どう考えたって 普通じゃない
ところが それだけじゃあ なかった……次に あなたが現われたのは Y県N市だ……
写真の配布が 功を奏し、 ある旅館から 支局に連絡が 入った。
再び西崎君に 骨をおって貰った…… これが二月中頃……


結局、あなたの行方が判ったのはそこまでだったのだが……
様々の反響はありました。例えば、あなたの奥さんと同様の苦しみをされている方の投書、これが一番多いんですが……それから、心理学者からのアドバイス
その他奥さんへのげきれい等、紙上に掲載しました。
それ以後、あなたを見たと云う連絡はありません…
石くら
仕方ないでしょう……
普段、僕等は周囲の者をそれ程、気を付けて見ている訳ではないのですから
石くらと言う旅館の女中さんの証言で……
あなたは二週間ばかり…つまり一月下旬迄居た事が判った。
旅情荘以後転々としていたのでしょうね



ほら、そこで
例の踊子の件ですよ
あなた、彼女を見たくて、劇場の
囲りをうろついたと云ったでしょ、
…………ところが実際はそれだけ
じゃなかったんだ
なあ……
西崎君は彼女に会った。
あなたは
彼女を宿へ呼んだそうだ
宿へはそれ相当の金を払い
彼女にも出演料？
を渡した。
あなたは
舞台の演技と同じ事を要求し
それだけと云う条件で
彼女もＯＫしたと云う……


初めは気味悪かったが
彼女の身体をみつめる
あなたの真剣な表情に
笑いだしてしまったそうだ……
二〇分位で、二・三回呼ばれ
たと云う。
結局、訳の分らない奇行に、
跡を追う西崎君は気が焦立った
と云っていた。何か、こう、
馬鹿にされているようだと、
帰ってから彼は大分ぼやいた。


…………
…………
あのお……
本当なのでしょうか?
僕等新聞記者だ
週刊誌屋ではない
覚えていません…………
どこか違うようです…場所も、女の様子も……
田口さんでないとしたら一体誰でしょうねえ
?
まあ、今は帰って来たばかりで、なんでしょうが、おそらく、記憶違いをしていると思いますよ
じゃなかったらははは…田口さん、あなたが二人居た事になる…


!?
考えられないでしょそんな事
あなたにそっくりな人が居たとして同じような旅をしてたってのは作り話めいてくるし……
と云ったところでひとつお願いがあるのです
C542
結局、旅先でのあなたの行動を僕等は理解出来ないでいます。


落着いてからで良いのですがその時のあなたの心情と云ったものを……
どうでしょう手記に書いてみては？
いや、大げさに考えないで下さいそれによって、あなたの気持も整理出来るだろうし、その他、色々思い出せるのではないでしょうか……
そ、それは無理です、第一……
出ていった理由を、自分自身にさえ、うまく説明出来ないでいるのに……そんな……
理由？ははは、田口さん僕等の推理が外れていましたか？
多少ニュアンスに違いはあっても、大分近い線は出てるのではないですか？



し、しかし……
人間、誰でも何か不満を持って生活しているものです　金持も貧乏人も同じです
皆んな適当に発散させているのですよ………
田口さんの場合今度の様な形で出てしまったのですよ…
………しかし
きちっと筋立てて話せれば…違うと云えるんですが…
とても無理ですね今の私には
一口に云えないのですが、変な感じですね、自分のしていた事を自分で覚えてないで他人がよく知っているのですから……あなた方の話の中に、私はまるで関係ないような、そんな、錯覚を起こしそうだ……


紙みたいだ
私は……
…………
捜索メモ
とにかく今日はお礼を云いに来ただけなので
手記の事は帰って考えておきます
それではどうも……私、じっくり考えてみるつもりです……
頼みますよ田口さん
手記の事約束しておきますよ……いいですね
それじゃ気を付けて……


馬鹿々々しい 結局奴は 何んだってんだ 馬鹿らしくて 消えちまいたい のはこっち だよ……
西崎君 何、考えてん だい？
いえ、ちらっと思ったのですが
もしですよ、あの人が又、消えたとしたら今度こそ帰らないでしょうね………
そうか…… ……保証は ねえもんな ………
…… ……… ……
カチッ
あっ どうも……

読者サロン



"芸術の階級性"なんてない

小池かおる（宮城・20歳）

3月号の石島君の批判に対し、ぼくの考えをのべてみたい。

もしぼくらが仮に、共産主義社会というものを想定しうるとするならば、それは現実における人間と自然との間の運動態としてのみ可能なのであって、決して人間性の崩壊などあり得ない、と断言してはばからないようなスタティックなもんだいではない。またスターリニズム云々といっておられるが、歴史の中からスターリニズムを〈あやまち〉として切りすてればあとは良し、としうるごときものではない。

おれは帝国主義者だ、と自称する者がかつてなかったように、おれはスターリニストだと自称する者は未来においてもあらわれるはずはないのであって、外在性としてスターリニズムを設定している限り、今度は権力闘争に敗れた者＝人民の敵＝スターリニストという図式が生ずるだけである。だから石島君のオプティミズムは一見未来的にみえても自己否定性を含まぬという点において実はもっとも非未来的なのである。

さて作品についてであるが、ぼくは再度断言するが〈思想性を前面におし出すこの種の作品〉なんぞ絶対信用しない。石島君に問う、一体芸術における〈階級的立場〉とはなんですか。ぼくはなにも「カムイ伝」に〈全階級的立場〉をとれなどといっているわけじゃない。ただ〈芸術の階級性〉なる幻想を拒否しているまでです。1月号本欄で〈ドストエフスキーやトルストイを…〉とならべて書いたうち〈階級的立場〉に立たないドストエフスキーはさておいて、〈トルストイは唯物史観にたっている〉などと全くのこじつけを主張しておられる。どっかの国のエライ人はまだそんなことをいっているらしいが、寝言は寝言、ぼくらは実際に「戦争と平和」をよんで見事な自己表現力に堪能すればよい。それだけです。

実在として存在するのは〈芸術一般〉のもんだいのみであり、それと別個に〈プロレタリア芸術〉があるなどは全くの幻想にすぎない。だからもしぼくらが論ずるとすれば、滝田ゆうと白土三平を芸術という同じ土俵の上でたたかわせる以外ないのであって、〈ああその前にマンガは芸術か？　というギロンが入りますね〉白土はプロレタリア芸術だから滝田とはフィールドが異るなどとは決していえないはずだ。まして〈プロレタリア〉のゆえに白土が滝田より上位にあるなどとは言えるものではない。

最後に石島君の主張する、唯物史観に立たなかったなら白土は「カムイ伝」を書かなかったろう、という説を是認するのであれば――それがとりもなおさず最近の「カムイ伝」の退屈さを生んだ原因ではあるまいか。

内容ある反抗の芸術を

木村定雄（京都・20歳）

最近のガロに関して、同世代の前衛的と称される諸家に感覚的な共感を覚えつつも、楠といったじっくり仕事をしている諸氏の職人気質の方に、より強烈で実存的な重さを感じ取っているオールド・ファッションな読者の一人として、少数意見（？）を述べてみたいと思います。

よく白土氏の作品に対して〈史観〉の問題が論じられますが、私などはむしろそうした論争から離れたところで、「カムイ伝」のモチーフの一つである〈カムイ〉というアイヌ語に託している作者の、人間性に対する強い信頼を見、そこに、幻滅と狂気の世代といえども、「ロダン的なロマンティシズムさ」といって片づけられない情熱を読み取っています。しかし、近頃は筋の展開に追われて、その辺のところがあまり感じ取れないのは残念です。

次に評判の高い佐々木マキ氏ですが、たとえば「アンリとアンヌのバラード」で見せたストーリーの巧みな対位法的展開やファンタジックなユーモアを感じさせる独得の絵柄等、確かに才能のある人です。しかし、持前の才気と器用さが余って、却って青臭い、反抗的ポーズの如く受け取られ、損をしています。

ついでに2月号対談中の氏の不用意な発言の挙足を取っておきます。読者が作品を深く読むのは、それは読者の越権というよりはむしろ謙虚さに起因しているのであって、その読者の善意の過ちを批判するには、単なる反抗のポーズではなく、内容ある反抗の芸術で以って答えねばならないでしょう。

最後に「目安箱」の上野昂志氏。

私は情況に鋭く切りこんでゆく氏の文体のタッチに魅惑され、魯迅の日本的末裔の出現だと思って、常々期待を持って読んでいるのですが、時折自己に課した魯迅の教訓から脱線する氏を見るのは残念です。たとえば、1月号で新宿の騒乱の中に「日常を廃棄する究極的な解放の先取」を見ること、つまり、白昼、新宿や羽田の空にミネルバのふくろうを飛び回らせてみるのも悪い趣向ではありませんが、その際ある限度内に論理的歯止を掛けておかないと、元来が夜行性の鳥ですから、機動隊の妨石網にひっかかって捕えられる恐れがあります。少くとも「法」や「国家」という内包量の大きい言葉を、青年の口に合うように文学的改竄をすることほど、読者をナメたことはないと思います。

未来を信じる明るい眼

依田弓子（東京・17歳）

「カムイ伝」は私にその美しさ、そのたくましさ、その偉大さ―つまり被抑圧者階級のみが有する崇高ともいえるもの―を深く印象に残らせた。白土氏のマンガは今やマンガではなくて立派な芸術作品であると思う。この「カムイ伝」には人を深く感動させる思想がある。それはむろんマルクス主義歴史観、世界観に他ならないが、氏はこれ

4月号の林静一「花の詩」の一七〇頁と一七一頁が入れちがいになっていました。お詫び致します。

「新日本書紀」は佐々木守先生が海外旅行のため今月号は休載致します。

マンガに関する参考文献案内

●「花の紋章」における極私的林静一論　あかり謙　「東北大学新聞」44年1月15日号
●女座頭市の世界―棚下照生　「週刊読書人」1月27日号
●沈黙に向う情念―つげ義春　「週刊読書人」2月10日号
●沈黙の美学者―つげ義春　夫馬基彦　「現代の日本」2月号
●異空間への旅人―つげ義春　「アサヒグラフ」2月14日号
●日常性への痛憤の翳　石子順造　「週刊読書人」2月24日号
●マンガからアンチ・マンガへ　中原佑介　「文芸」3月号

を直接的に絵にうつしかえて表現せず、氏の主体的実践からとらえたかめていった一つの認識、感情を壮大な構想力と未来を信じる明るい眼―革命的楽観性―を背景として表現している。

私は氏のマンガによって江戸時代というものをはじめて本当に（一部的ではあるが）わかった気がする。そして今迄の学校で教えられた歴史とは一体なんであったかを考えさせられた。これはその歴史把握が反唯物史観に立ったという浅い意味ではなく真に実践的な意味をもつものとしての歴史でありもっと範囲を広げていえば私のうけてきた教育ではなかったかということである。一体私の頭の中に残っているのは何か、それは今生きている私にとってこれっぽっちのエネルギーとはならない上べの政治機構であり経済制度でありそして文化でしかない。江戸時代は、身分制度の支配する徳川封建社会としてしかとらえられていない。あとは細々とした事項と経過など。

歴史とは何か。歴史と我々はどうつながるのか。なぜ我々は歴史に参加するのか。そして教育―歴史教育とはどのように行なわれねばならないか。さらに拡大していえば人間は如何にして真理を知り発展させてゆかねばならないのか。人間の認識方法にいたるまでこの「カムイ伝」は考えさせ、そしてある程度の答えまで与えてくれた。

歴史とは、あの正助達が必死に生きた血にあふれた時は決して単なる過去ではなく今日この現代に通じる生きるための闘いの瞬間瞬間であるということ―あの悲惨な江戸時代の農民の血と汗とはっきりきりはなされた過去ではない。今につらなる一揆であるところの人間の闘争の一瞬なのであると感じさせるだけの力をもった歴史教育であらねばならないはずである。この社会は如何なる社会であるのかそしてこの社会にあって如何に行動してゆくのかを必然的に考えさせるだけのエネルギーをもったものであらねばならないと思う。我々は単に知るために歴史を学ぶのではなく現実を変革するために歴史を学ぶのである。すべて教育は真理を、階級闘争としての歴史に結晶してきた〝事実〟を学び未だみぬ理想社会めざして階級闘争をつづけるためのものである。

「カムイ伝」によって私は大げさにいえば私の生きる姿勢、行動すべき自分であることを教えられた。歴史に如何にかかわらねばならないかを。

ところで「カムイ伝」がつまらないという感想が時々のる。私は「カムイ伝」に全く反対の感想をもち白土氏に尊敬を感じて、今「忍者武芸帖」「カムイ伝」を通読して全く大きな衝撃、感動をうけている。それ故ただ論理的な理由もあげずつまらないという投稿者には怒りさえ覚える。

神話の時代は終った

三輪柾行（東京・20歳）

白土三平の神話の時代は終った。私は彼の仕事の価値をないがしろにしようとは思わぬし、私自身少なからぬ感動と衝撃を受けて来たこともいなむまい。だがやはり、私はあえていう。白土三平の神話の時代はすでに終った、と。歴史の必然性とかプロレタリアートの連帯などといった美しい言葉はしかしすでに我々を感動させ得ぬ。「今、私を感動させる唯一の言葉、それは自由だ」（アンドレ・ブルトン）。

ある時期、人は自らの自由のためにプロレタリアートと呼ばれる人々と連帯し得た。それはひとりひとりの自由が圧殺されて行くパターンが同時にその階級が隷属させられて行くパターンと同一であった故であろう。従ってプロレタリアートの解放が極めて多くの人々の得るべき自由へとつながり得た。その対立はその本質を同じうし、ひとつの大原則として今日に続いてはいる。

従って正助やナナの戦いは我々の戦いと無縁では無い。だがそのパターンは多くの異なる部分を持つ。階級は細分化され支配機構は上から下へ、という二次元的な力関係でなく、さらに複雑な無数のベクトルによって形作られている。それはすでに同じ利害関係に基づき、まったく同じ敵に対している大多数を占める階級の成立を不可能にしている。対立は階級対階級の次元から全体に対する個の次元にまで追いつめられている。また、あるいはそこまで突き進んでいるとも言える。

我々は民衆の歴史を知ることの前に、あるいはそれと並行して、個の情念の歴史を追わねばならない。今日、やすやすとプロレタリアートの連帯という言葉を信じることは、あり得ぬ階級を形づくろうとするためにひとつの組織権力を生むことになるだろう。そしてその組織権力は個を圧殺する。それはつまるところ国家権力に加担し人間の自由への道を圧殺する反革命でしかあり得ない。

すでに終ったのは白土三平の神話のみでなく、ひとつの革命の神話が終ったのだ。十月革命は再来せぬし、百姓一揆はすでに起りはせぬ。（小川プロの映画「三里塚の夏」は幻影だ）今日我々は体制の一環として、全体の一員としての存在を強いられているのだ。敵は私自身の内にさえある。すでに過ぎたものは貴重な教訓にはなろうが、我々は為すべき革命について語らねばならない。私は誰よりも佐々木マキに期待し、3月号菅井君、昨年11月号富山君の本欄における論稿を支持する。新たなる革命への新たなる試行錯誤のために貧しいながらも迷いつつも一歩あるいは半歩前へ。